

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1054 号	氏 名	城甲 泰亮
論文審査担当者	主 査 池田 修一 副 査 本郷 一博 ・ 角谷 眞澄		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>アルツハイマー病、健忘型軽度認知障害と老年期発症の大うつ病性障害（うつ病）は鑑別に海馬の萎縮部位の差が指標の一つになるのではないかと考えて、Region of Interest (ROI) 法を用いて MRI 定量解析を行った。</p> <p>撮像時 60 歳以上のアルツハイマー病患者 58 名（平均年齢 77.7±6.5、女性 45 名）、健忘型軽度認知障害患者 33 名（平均年齢 76.4±6.4、女性 18 名）、first-episode のうつ病患者 20 名（平均年齢 75.0±6.9、女性 15 名）、正常群 22 名（平均年齢 75.4±5.9、女性 14 名）を対象とした。アルツハイマー病、うつ病の診断は International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems, 10th Revision の診断基準に従った。健忘型軽度認知障害は Peterson の診断基準に従った。各症例の選別条件として認知機能に影響を及ぼす血管病変のある症例、アルコールや薬物の乱用、頭部外傷の既往、精神疾患の重複がある症例を除外した。磁場強度 1.5 テスラの MRI を用いて、short TI inversion recovery 法により撮像された冠状断画像を用いた。頭蓋内面積 (C) は白質、灰白質、脳脊髄液を含む硬膜内面積とし、ROI 設定は小脳下縁から頭頂までとした。海馬断面は海馬体部に直行するスライスを選択したうえで断面が乳頭体を通る面を基準断面として、基準断面の 3mm 前方から 3mm ずつ 18mm 後方までの 8 断面を選択した。8 断面で右海馬の面積 <math>H_{rn}</math> と左の海馬面積 <math>H_{ln}</math> の和 <math>H_n</math> を頭蓋内面積 <math>C_n</math> で除した値を補正值 <math>H_n / C_n</math> として (<math>n=1\sim 8</math>)、頭蓋内面積に対する比として area ratio (%) を算出した。4 群間において補正值 <math>H_n / C_n</math> を比較するために、各疾患群と断面間でそれぞれ t 検定による比較を行った。統計解析には、Stat mate V for Windows®を用いた。</p> <p>その結果、城甲泰亮は次の結論を得た。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 各群間の海馬断面積補正值の比較では、アルツハイマー病&lt;健忘型軽度認知障害&lt;うつ病&lt;健常者の傾向がみられた。</li><li>2. 海馬の冠状断断面において、健常者と比較して、アルツハイマー病は海馬全体の萎縮を認めた。</li><li>3. 健忘型軽度認知障害では海馬全体の萎縮は軽度ではあるが海馬頭にのみ顕著な萎縮がみられた。</li><li>4. うつ病では海馬体前部のみに萎縮がみられた。</li></ol> <p>これらの結果より、海馬を部位ごとに分けて比較する方法は、アルツハイマー病、健忘型軽度認知障害、うつ病の鑑別に有用である可能性が示された。よって、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			